

平成26年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）（④企10-14-4/5）

目 的

企画情報部の美術史研究の成果を一般に公表することを目的として開催。今回で48回目を迎えた。

成 果

1. 第48回企画情報部オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」と題して4講演を2日間にわたり開催した。
 第1日目：2014（平成26）年10月31日（金）13:30～16:30 東京文化財研究所地下セミナー室
 「一流相承系図（絵系図）の構想と機能」津田徹英（文化形成研究室長）
 「院政期絵画における二つの美の原理—似絵の成立をめぐる—」伊藤大輔（名古屋大学大学院教授）
 第2日目：2014（平成26）年11月1日（土）13:30～16:30 東京文化財研究所地下セミナー室
 「仙台・昭忠碑、被災から復興へ向けて」塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）
 「戦争の「表象と本物」」河田明久（千葉工業大学教授）
2. 参加者数：のべ163人。聴講者にアンケートを実施したところ、127人から回答を得た（回収率：78%）。満足度に関する回答結果は、「たいへん満足した」43人、「おおむね満足した」70人、「普通だった」7人、「不満が残った」2人、無回答5人。アンケート回答者の82.7%から満足感を得た。
3. 4講演のうち、「一流相承系図（絵系図）の構想と機能」については、次年度刊行の『美術研究』に講演内容を踏まえ、次年度の『美術研究』に論文として掲載することが『美術研究』編集会議で承認された。



オープンレクチャーの開講（第1日目）



「オープンレクチャーのご案内」